

2016年1月31日

## 福音書からのメッセージ

そして、言われた。「はっきりしておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。」

(ルカによる福音書 4章 24節)

イエス様は生まれ育ったナザレの会堂で、次の聖書の言葉を朗読されます。

主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。

そして会堂にいるすべての人の目がイエス様に注がれる中、イエス様は今日の箇所冒頭の言葉を語られました。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と。

この言葉、そしてその後につけられたイエス様の発言を聞いて、会堂にいた人たちは怒りに震えます。そして崖から突き落としてしまおうとさえ思うのです。

彼らは何に腹を立てたのでしょうか。理由は二つあります。まず大工の息子であるイエス様が、会堂で話をしているということに対してです。その当時、大工の息子は大工であることが普通でした。ましてや、自分たちの教師になどは、まずなれませんでした。イエス様の昔のことを知っている彼らだからこそ、その言葉が素直に耳に入ってこなかったのでしょうか。

そしてもう一つ、彼ら会堂に来ていた人たちは、まじめに安息日に礼拝する自分たちにこそ、救いが与えられていると思いついていたのではないのでしょうか。しかしイ



エス様の言葉によると、救いにあずかるのは自分たち以外の人間、それも神さまに見捨てられ、神さまのことを第一に考えていないとしか思えない人たちでした。

しかしイエス様はその生涯の中で、小さくされ、弱くされた人々の傍らに立つてこられました。この言葉は、これから神さまのみ業を行うイエス様はどこに立つのか、そのことを宣言しているのです。

わたしたちの社会の中でも、一步外に出て、視線を自分たちの社会の枠の外に向けると、その枠組みから追い出された人たちや、差別され抑圧された人たちが、本当にたくさんいることに気づきます。神さまを頼るしかない現実の中で、歩むこともままならない、そのような人たちの存在があります。

その人たちの元に、イエス様は立たれます。ではわたしたちは、どこに心を向けるべきでしょうか。誰のために祈り、誰のそばに寄り添うことが、神さまのみ心に適ったことでしょうか。

あなたはどこに立つのか、イエス様は常にわたしたちに問われているのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

Tel/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannnari.com/>